

地方独立行政法人市立秋田総合病院評価委員会平成28年度第1回会議記録

- 議 題：1 地方独立行政法人市立秋田総合病院平成27年度業務実績、財務諸表等
についての法人からの説明および質疑
2 地方独立行政法人市立秋田総合病院平成27年度業務実績、財務諸表等
についての評価委員会審議
3 その他
- 日 時：平成28年7月6日（水）15：00～16：30
- 場 所：秋田市役所5階 第2委員会室
- 出 席 者：【評価委員】鈴木委員、中澤委員、河野委員、佐藤委員、野口委員
【病院法人】小松理事長、本間事務局長、糟谷次長、伊東経営企画室長、
小林参事、伊藤診療情報室長、目黒主事、森田主事
【事務局】辻福祉保健部長、渡部福祉保健部次長、
近藤福祉総務課長、眞崎参事、西崎主査、長谷川主事

議 事 開 会

事務局

ただいまから平成28年度第1回「地方独立行政法人市立秋田総合病院
評価委員会」を開会する。
本日の会議は、全委員が出席であり、本委員会条例に規定する定足数を
満たしていることを報告する。
議事については鈴木委員長が進行する。

【議事(1)】

地方独立行政法人市立秋田総合病院平成27年度業務実績、財務諸
表等についての法人からの説明および質疑

委員長

平成28年度第1回目の評価委員会となる。評価にあたっては、皆様
のご協力をいただきながら、よりよい方向にまとめていきたいと思うので、
よろしくお願いいたします。
それでは、次第にしたがい議事を進行する。
まずは配布資料を確認しながら、本日の議事進行方針を説明する。
はじめに法人が平成27年度事業概要について説明し、資料1で業務実
績の自己評価に対する質疑、資料2で財務諸表等に対する質疑を行う。
その後評価委員での審議となるが、自由闊達な意見交換の場とするた
め、本委員会運営要綱第2条の規定により、議事の(2)評価委員会審議
については非公開とすることが適当であると考えがいかがか。

異議がないようなので、議事(2)「地方独立行政法人市立秋田総合病

院平成27年度業務実績、財務諸表等についての評価委員会審議」は非公開とする。

それでは、議事(1)の「地方独立行政法人市立秋田総合病院平成27年度業務実績、財務諸表等についての法人からの説明および質疑」を行う。はじめに平成27年度事業概要について法人からの説明を願う。

法人

(事業総括説明)

法人

(資料1により事業概要を説明)

委員長

今回の評価対象は、資料1「平成27年度業務実績調書」に記載がある52項目である。

各委員から事前聴取した質問や、追加資料要請した内容等を中心に質疑を進める。項目が多いため、連番で区切って、事前質問等への対応状況を法人が説明した後に質疑を行いたい。

まず、連番1～26について法人から説明を願う。

法人

連番1 がんへの対応

【質問】

- ・乳房MRI検診について、年度計画では「引き続き実施」とあるが、平成27年度は中止したのか。

【回答】

- ・平成26年度から実施する予定だったが、需要が見込まれないため実施に至らなかった。平成27年度計画策定時にその事実を把握しておらず、そのまま計画に載せていたが、平成27年度も実施には至っていない。

連番2 脳卒中への対応

【質問】

- ・脳血管疾患リハビリテーションの件数が大幅に増加した背景・要因は何か。

【回答】

- ・医師の交代により、神経内科からのリハ依頼件数が大幅に増えたため。脳卒中などの急性疾患のほか、パーキンソン病などの変性疾患の依頼も増えたため。

連番9 健診体制の充実

【質問】

- ・企業検診の受託についてはどうか。
- ・「新たに導入した検診システムを活用した業務の効率化」として、具体的にどのような活動を行ったか。

【回答】

- ・企業検診の受託実績は、平成26年度は90名、平成27年度は100名であり10名の増となった。
- ・従来は紙カルテ・紙結果表のため、各担当医が順番に記載をしていたが、システム導入により、各医師の同時入力が可能となり、これまでの約半分の日数で結果送付が可能となった。また、定期的な医師への入力の督促を行った。

連番10 医療安全対策の強化

【質問】

- ・インシデント報告数が目標指標に達しなかった理由は何か。
- ・院内暴力は発生しなかったのか。
- ・年2回以上の受講を義務付けている研修は何回実施したか。また30回開催した研修会との関係はどうか。
- ・不参加者に実施した確認テストの内容はどのようなものか。

【回答】

- ・インシデント報告数が目標指標に達しなかった理由として、昨年3月にインシデントの新システムを導入し、慣れるまでの間、報告件数が減少した。また、看護部以外の報告件数が増加しなかった。
- ・院内暴力は2例発生したが、大事には至らなかった。
- ・全職員を対象に2回以上の受講を義務付けている必須研修は2講座あり、年間30回開催した医療安全研修のうち18回の開催だった。
- ・不参加者（主に医師）全員に、研修の内容で作成した計10問の確認テストを実施し、採点后返却した。

連番11 院内感染防止対策の強化

【質問】

- ・感染防止対策研修について、結局4名は2回の受講に至っていないが、受講不能な理由がある職員か。

【回答】

- ・1名が1年間の長期出張中、2名が休職中、1名が非常勤であり、この評価後レポートが提出された。

連番12 女性に優しい病院づくり

【質問】

- ・夕暮れ乳がん検診件数が減少した要因は何か。

【回答】

- ・乳がん検診の乳腺・内分泌外科の医師が1名減となり1人体制となったことにより、学会等の不在時には休診になったため。

連番21 接遇に関する研修の実施

【質問】

- ・各部門における接遇リーダーによる継続的な接遇研修の実施状況はど

うか。

【回答】

- ・看護部では、各病棟ごとの接遇リーダーが年間活動目標を設定し、2か月ごとに職員の身だしなみ等のチェックをしたほか、自己チェックも行わせた。その他の部門においては、接遇リーダー研修の内容を、職員に周知する程度に留まっている。

連番 2 3 病院ホームページの充実

【質問】

- ・ホームページの「各診療科のご案内」の各科の実績が平成24年度までの実績紹介であり、実績の掲載なしの診療科もあるが、随時更新しているのか。もしくは、他の項目で最新の実績が掲載されているのか。

【回答】

- ・最近は更新されておらず、今後は年報のデータをその都度掲載する予定である。

委員長

それでは、ご質問等あれば、各項目に付している連番を指定してから願いたい。なお、連番1～26であれば事前質問した項目以外でも、結構である。

委員長

連番1について、乳房MRI検診の需要はなさそうか。

法人

乳房MRI検診は時間がかかる。また、受診者の負担も高額になり、その分需要も伸びず、乳がん検診にMRIを導入するのは難しい。

委員

連番9の企業検診について、今後数値目標を設定する予定はあるか。

法人

担当課に確認していないため、次回委員会で回答する。

委員長

連番10の医療安全研修について、確認テストの内容はどういったものか。

法人

次回委員会時に参考までに資料をお持ちする。

委員長

連番27～37について、法人から説明をお願いする。

法人

連番 2 7 医療に関する調査および研究

【質問】

- ・倫理委員会、治験審査委員会の件数そのものは評価にかかわらないとの理解でよいか。

【回答】

- ・倫理委員会については、審査が必要な案件については速やかに審査を行っている。また、治験については、承認審査基準が国際標準化され厳しくなり、製薬会社からの依頼件数が減少した。依頼を受けたものについては、できるだけ引き受けており、前年度よりも減少しているものの、必要な体制は維持している。なお、平成26年度は、新型肝炎治療薬の開発に伴い、例年より治験の件数が多かった。

連番28 人材の確保と育成

【質問】

- ・医師や看護師の負担軽減に対する体制はどの程度整備されたか。

【回答】

- ・医師事務作業補助者を5名増員し、1名配置の一部の診療科を2名配置とした。

連番35 専門医等の育成

【質問】

- ・専門医を目指して研修中の医師は何名か。

【回答】

- ・現在、後期研修医12名が消化器内科、外科、麻酔科等で研修中である。

連番36 市民への保健医療情報の提供・発信

【質問】

- ・中期計画目標指標では、出前講座12回。27年度計画目標数値では出前講座・健康カフェ50回、業務実績では出前講座・健康カフェ23回（前年度4回）と、それぞれ大きく回数が変わっている背景を知りたい。
- ・出前講座・健康カフェ等実施回数は、計画目標値に対し業務実績は下回っている。院内教室や講師派遣回数などを勘案して自己評価をIVとしたのか。

【回答】

- ・年度計画中の50回実施については、主体的に講演を行うものと、依頼を受けて講演等を行うものを合わせた回数を記載している。実績には、当院の主体性に重きを置くため、それらを分けて回数を計上している。計画に対応する実績は、「出前講座・健康カフェ等実施回数23回+講師派遣回数41回=64回」となる。
実績が前年度より増加した理由は、平成27年4月から健康カフェを実施したこと、10月から「あらや健康セミナー」を毎月実施し始めたことによる。
- ・講師派遣回数などを勘案して、IV評価と判断した。

連番37 災害時の体制強化

【質問】

- ・災害備蓄品は、通常の診療に要する量の3日分に相当するとの理解でよいか。

【回答】

- ・通常の診療に要する量であり、医薬品や診療材料等3日以上ある。

委員長

それでは、ご質問等あれば、各項目に付している連番を指定してから、願いたい。

ないようなので、最後に、連番38～52についての法人から説明を願う。

法人

連番38 経営企画・分析力の向上

【質問】

- ・設置した経営企画部では、十分ではなくとも診療実績等の分析を行ったのではないか。

【回答】

- ・各科ごとの患者数や稼働額、各種指導料等の算定件数、DPCと出来高の比較等については、毎月データを出し、院内の管理会議、運営会議、診療局科長会議で説明しているが、目指していた原価計算の実施に至らなかった。

連番40 効率的な診療体制の構築

【質問】

- ・業務実績欄に記載のあるクリティカルパスの電子カルテへの移行は年度計画にない。年度計画にあるパスの内容の見直しを行ったか。
- ・クリティカルパスの電子カルテへの移行について、どの程度の目標指標を想定していたのか。

【回答】

- ・十分には進まなかったが、内容の見直しを行い、全国の標準的なパスやDPCの期間なども参考にしながら作成に努めた。
- ・クリティカルパスの電子カルテへの移行については、平成27年度中の目標設定は行っていない。なお、28年度計画においては、パス使用率を目標指標に掲げており、患者数では30.0%、適用日数では15.0%を目標にしている。

連番49 短時間勤務制度等の検討

【質問】

- ・短時間勤務正職員や夜勤専門看護師の制度についての検討はどうか。

【回答】

- ・具体的な検討に至っていない。

連番 5 1 職員の健康保持

【質問】

・衛生委員会は毎月実施されたとの理解でよいか。

【回答】

・労働組合からの推薦による委員を指名する作業等により、第 1 回目の開催時期が遅れたため、毎月実施できていない。

委員長

それでは、ご質問等あれば、願いたい。

委員長

連番 3 8 の原価計算の実施については、大きな病院では大変だと思う。今年度は実施できそうか。

法人

取りかかっているところである。

委員長

連番 5 1 の衛生委員会は、委員が指名された後は月 1 回開催されているということか。

法人

そのとおりである。

委員長

最後に、全体を通し質問があれば、願いたい。

委員

感染防止、医療安全等の研修について、参加率向上に苦勞していると思うが、最近医療分野の研修で浸透が進んでいる e ラーニングなどの導入は検討しているか。

法人

看護部においては行われているが、全体では行っていない。

法人

研修会場である講堂などが狭いため、職員を集めるのが大変であり、e ラーニングなど適切なものがあれば、積極的に取り入れて行ければと思う。

委員

全体講習をするよりも、e ラーニング型のシステムでは、習熟テストを行わないとプログラムが終了しない仕組みのものもある。大きな病院では有効と考えられるため、導入について検討されてはと思う。

委員

研修について、医師も含めた職員の意識の底上げという観点で、倫理的な意識向上のための研修は行われていないのか。

法人

倫理研修は毎年実施している。昨年は医師の資格を持った弁護士を講師に行った。

委員

その倫理研修での倫理とは、業務におけるコンプライアンスという意味

か、それとも医療倫理という意味か。

法人 実施した倫理研修は、犯罪の防止などといった内容で、医療倫理ではない。

法人 医の倫理については私が講師となって研修を行っているが、それは新入職員を対象としたものである。

委員 医療の世界も日々考えなければならぬことが増えているので、医療倫理の研修について、継続的にテーマを設定して実施されるのがよろしいのではないか。

委員長 連番47の法令・行動規範の遵守に関連した質問だが、平成26年12月に厚生労働省および文部科学省から臨床研究のガイドラインが発出され、平成27年4月から施行されており、臨床研究を実施する全ての病院でも臨床研究に関する規程を整備しなければならなくなったが、市立秋田総合病院では作成しているか。

法人 作成している。

委員長 ガイドラインでは、法人の理事長が大きな権限と責務を持つことになっている。権限移譲などを行っているかと思うが、市立秋田総合病院では、理事長が臨床研究に関しての権限を持ってやっているということでしょうか。

法人 そのとおりである。

委員長 臨床研究を始めるたびに、その都度倫理委員会を開催するのも大変だと思うが、工夫していることはあるか。

法人 特にない。

委員長 とにかく倫理委員会にあげて処理しているということか。

法人 簡便な倫理委員会をつくり行っている。

委員長 次に、平成27年度財務諸表について、概要を法人から説明を願う。

法人 (財務諸表について資料2で説明)

委員長 それでは、財務諸表へのご質問等あれば願いたい。

委員	損益計算書内の過年度損益修正損の前年度比での増加の内容は何か。
法人	平成26年度の収益の減を、平成27年度に費用処理したもの。平成27年度末に電子カルテを導入したことにより、平成27年1月分の社保分の過誤調整の数字が正確に把握できず、平成26年度中に処理できなかったため増加したものである。
委員	電子カルテ導入時の未確認事項を処理したものであるため、改善済みということによいか。
法人	そうである。
委員	キャッシュ・フロー計算書において、有価証券の取得による支出は6億円となっているが、附属明細書から有価証券の取得による支出は9億円。差額の3億円は有価証券の償還による収入という理解によいか。
法人	そうである。
委員	行政サービス実施コスト計算書において、平成26年度は機会費用に「無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用」で5,446千円ほどあるが、平成27年度には計上されていない理由は何か。
法人	平成26年度については、病児院内保育施設を秋田市から無償で借りていたが、有償借用した場合の使用料として算定したもの。平成27年4月1日付けで市から無償譲渡され病院の所有となったため計上されていない。
委員	たな卸資産明細の当期減少額その他の欄は、期限切れによる廃棄又は滅失した資産があれば記載することとなるが、0円となっている。たな卸資産の廃棄、滅失がないのは考えにくいがどうか。
法人	廃棄分も全て使用したこととして処理していた。たな卸資産減耗処理をすべきという指摘だと思うので、今後検討する。
委員	たな卸はしているのか。
法人	している。
委員	それでは廃棄、滅失は把握でき、改善できるという理解でよろしいか。
法人	はい。

委員 資本金明細については、会計基準QA上は、当期増加がある場合には、その内容を示すこととなっているが、記載がないので確認させていただく。資本金の当期増加額73,400千円については、病児院内保育施設の出資であり、73,400千円増加したとすると、貸方側では資本金の増加、借方側では建物の増加との理解でよいか。

法人 そうである。

委員 決算報告書と事業報告書(P18)とで、給与費の決算額に大きな差があるが、何か要因があるのか。それとも誤りか。

法人 誤りである。事業報告書の数字が正しい数字である。

委員 資金計画「秋田市からの繰越金」については、「前事業年度からの繰越金」が正しいのではないか。

法人 そうである。

委員 平成28年度の資金計画について、投資活動の収入・支出には満期の有価証券の償還等出ていない。償還については満期が決まっているのであれば、有価証券の満期償還による収入は含むべきと思うがどうか。

法人 資金計画の作成にあたっては、予算金額と合わせており、有価証券の満期償還による収入は、予算で計上していないため計画にも反映していない。ご指摘の意見については今後検討する。

委員長 他の委員から、質問等あるか。

委員長 回答いただけなかったもの、追加資料等について、法人にて対応願いたい。それでは、これ以降は評価委員での審議とする。
(病院法人関係者は退出)

【議事(2)】 地方独立行政法人市立秋田総合病院平成27年度業務実績、財務諸表等
についての評価委員会審議

ア 業務実績について
※非公開

イ 財務諸表等について
※非公開

【議事(3)】 その他

委員長

それでは、議事(3)「その他」について事務局から説明を願う。

事務局

平成28年度第2回評価委員会の日程については、7月28日(木)午後3時から、今回と同じ第2委員会室で開催する。

次回は、回答を持ち越した案件や追加資料調整のあったものなどについて法人から説明をいただき、本委員会として52の項目別評価を作成するため、ご審議いただく。

今回の議事録については、まとめ次第、電子メールで送付するので、確認を願いたい。

閉 会

事務局

平成28年度第1回地方独立行政法人市立秋田総合病院評価委員会を終了する。